

トランプ氏と民主主義

兒玉 稔

トランプ氏米國大統領に當選す。例に漏れず、我が豫想も外れたり。はじめ、ジェブ・ブッシュ氏共和黨候補たるべしと思へども此の人早々に敗退。本選にてはクリントン女史有利を確信すれどもピューラーボート（得票總數）を得ながら選挙人獲得數にて及ばざりけり。

選挙結果に驚ける日米の識者や新聞各紙、冷静を失ひたるかの如し。中に、選挙結果は民意を正確に反映せずとの論あり。暴論と言ふべし。彼等はブレクジット（英國EU離脱）につきても英國民が眞意ならずして物の弾みがなせる仕業と宣ふ。規則に基きて行はれし選挙の結果を輕んずる者、民主主義者と云ふ可からず。

但し選挙方法の適否は別に論ずる餘地あるべし。

識者らは、傍若無人トランプ氏も當選後は常識的振舞に變ずるとしたり顔に云へり。然らず。當選後最初の記者會見席上、選挙期間中に批判記事ものしたるCNN記者の質問を「嘘記事新聞」と遮る様子、テレビに映さる。これ大國指導者にあるまじき姿と嘆く者多し。

我は祕かに「よくぞ云つたり」と思へり。報道の自由は重要にしてメディア、誰に憚ることなく意見書くべし。他方、書かれし側の反論も許さるべし。洋の東西を問はず、マスコミを敵に廻すを避けむがため腰引ける政治家餘りに多く、而して書く側、増長を重ね、自己を中立公正無謬と誤解するに至れるにあらざや。

法に觸れねば、記事書くは自由。その記事、記者に報いを與ふるも自由なり。願はくはトランプ氏、人氣取りに傾斜せず、メディアに對するに物分かり良き大人になるを拒み、對決姿勢を堅持せられむことを。品位なむぞは好みの問題にして顧慮の要なし。

我としても國を統べるは聖人君子にてあらまほし。しかれども、選挙期間中、もし我に投票權あらばトランプ氏に投じたき氣分あり。何故か。今、地上に鬱陶しき閉塞感大なるを覺え、何にても良し、この閉塞より抜け出でたく思ひ、同氏ならば何かを生ぜしむるかもと期待すればなり。

然り。彼の國も我が國も、往時に比すれば相應に平和かつ繁榮の狀況にてあり。されど何がなし、政治經濟言論延いては言はば社會の有様、頑固にして動かし難くなりて、日々我等が暮しの頭上に覆ひ被さり、更にそれますます定着の度を強め、我等がそれより逃るるを許さざる感、あるにあらざや。戦後七十年を閱^{けみ}して、社會落着きたるに伴ひ、所得格差増大しつつ固定化し、世の中にワクワク感、うきうき感の少きにあらざや。

例へば産業界にてはIT關聯など新しきもの勃興すれども、なほ漂ふ閉塞感を打壊すまでの力これなきが如し。この閉塞感、何處より來るものか我は知らず。或は、安定と變革を交互に求むるは、人間の本性なるか。

トランプ氏勝利は、世上言はるる白人低所得層の支持に加へ、中高所得にしてかかる閉塞感に倦みたる人々が齎したると、我は解す。トランプ氏、地方不動産業者の子なれども己が才覺にて有力デベロップアーに成り果せられたれば閉塞狀況に風穴を開ける期待を抱かせしむ。

新大統領にヒトラーを想起するメディアあり。今や佛蘭西にも右翼ルペン女史擡頭し居ればこの不安なしとせず。しかれども我等、既にヒトラーの惡例より學び、更には元首彈劾制度その他の對處方を

工夫し居れり。メディアの言ひ分は、眞に獨裁を懼れて警鐘を鳴らすにあらずして、豫想外選挙結果に狼狽し、悔し紛れの悪態をつくものなり。民主的選挙結果を輕んじ、徒に不安を煽るこそ、意に添はざる現実を貶しむる、メディアの横暴なれ。

假にトランプ氏、ヒトラーに成り果て、淺はかにも核のボタンを押して人類を危機に瀕せしむる時も、これ民主主義を良しとして來たる諸國民が自業自得と諦むる覺悟をし直し、選挙結果を尊重すべし。すなはち、今次の選挙を奇貨として、民主主義を越ゆる新社會制度の議論出現を願ふこと大なり。

(平成二十九年二月十四日受附)